HIDEAKI FAXレポート
2004.7.20
5-7 通算70号

発行 伊藤ひであき事務所　豊橋市東田町西前山144-14 TEL 0532(53)3483 FAX (53)3809
EMAIL：hide@apli.co.jp インターネットホームページ　http://www.itouhideaki.com/

「負担増の痛みの時代」の年金選挙考

●「年金100年安心」への不信感

「今度の年金改革はおかしくない？保険料は上がって、給付は下がるのでしょ。困るのよねー」。こんな趣旨のCMや「年金改革法」の強行採決の画面が何度も何度も流れてきた。

坂口大臣が先頭になって、昨年の秋以来まとめあげた「年金100年安心プラン」が「100年持つ制度ではない」との批判がくすぶり「年金選挙」の様相を濃くし、うだるような暑さの中で参院選は終った。

結果は共産党が減らした議席の分が民主党に回った形となって、自民党にお灸をすえたが、積極的に民主党を支持したわけではないというほぼ五分五分。

この乱戦の中で、公明党は比例区票862万は史上最高の堅調さを見せつけて1議席上乗せ。支援者の皆様の大奮闘にただただ感謝するばかりです。

しかし、選挙後の世論調査でも回答者の7～8割がこの「年金改革法」を「白紙に戻したほうがよい」と答え、この論調が収まらない。

●長期持続可能な道筋が示されたのに

そもそも、6月5日に成立した「年金改革法」の本質は何であったのか。「急速に進む少子高齢化のなかで、将来とも暮らせる年金を確保するとともに、最終保険料を定め、今後2017年度まで徐々に保険料（率）を引き上げること、基礎年金の国庫負担割合を2009年度までに段階的に引き上げて2分の1とすることなど、給付と負担の抜本的見直しを行ったことにより、ようやく持続可能で安定的な道筋ができた」ことです。

しかし、残念ながら未納問題や、グリンピアや社会保険庁の無駄遣いなどの不毛な枝葉の問題に終始し、肝心の改正法の積極的意義が国会で論議される場面は少なかったし、100年持たないから強行採決までして成立させたとなり、出生率1.29の後だし（？）問題や「人生いろいろ」発言が輪をかけ「年金改革ノー」のイメージが膨らんでいった。

●捨てきれない甘い幻想、認めがたい負担増

今度の年金改革は緩やかであっても「負担は多く、給付は少なく」なることは明白であり、このことは国民の生活に生々しく直結する。しかし、少子高齢化が進んでいる以上、どんな年金改革であっても、支える側の保険料負担は増え、もらえる側の給付水準は下がるという点は避けられない。

もはや将来に甘い夢や幻想を描くことは不可能なのだ。だから国民は負担増はやむを得ないと考え始めているが、それでもその甘い幻想を捨てきれないでいる。

ベストセラーになった「市場主義の終焉」や「年収300万円時代を生き抜く経済学」という本を読みふけっていても、それでもなお‥‥。

「人間はいったんぜいたくを知ったらなかなか生活水準を下げられない。国民の大多数は『今の豊かさがいつまでも続く』と信じ、老後の生活を現在の延長上に思い描く。その未来設計を踏みにじる年金改革に敏感に身構えたとしても不思議はない」

この矛盾した人間の裏腹のもどかしい現実が今回の参院選の結果に現れたのではないのだろうか。

●財政再建に魔法の杖はない

来年は介護保険、そして再来年には医療制度を大幅に見直す。地方財政も正念場に入っている。豊橋においても交付税予算は25億円の減額内示である。

負担増はますます避けられない。納税者の同意を得るには歳出に無駄がないことと負担増が公平であることが絶対条件であり、その上で私たちは甘い幻想を捨てなければならない。その上で、私たち政治に携わるものは幻想を生んだ仕組みを壊し、この本質を見据えた上に、生活者がかけがえのない人生の花を咲かせるための社会条件を大地にしっかりと整える責務があると痛感する日々です。（END）